

四五

受信〇〇八三〇〇

譯了〇八四五

電〇二六八四

作概



● 第二三根戰鬪概報着信艦所

機密第〇四二三五八番電

二十三根戰鬪概報第一五五號四月四日

一〇七三五B二四 二機北東ヨリマカツサル半島ニ侵入低空ニテ船舶

ニ對シ銃爆撃(投彈二)〇八一〇北方ニ擊退戰果被害ナシ

三一九〇五B二四 二機北東ヨリ侵入「マロタル」飛行場第二滑走路

ニ投彈三發(使用可能)一九二〇夫々北方ト南東ニ去ル戰果ナシ。

通三〇三四

天二Bケ六(六一二二五KG)二一第 神山(福田)

昭和四年四月六日

人

四 五 受信〇〇四三二 譯了〇五五七 電〇二五六八

航作概本〇

作戰緊急

九三一空（戊空基地） 九三一空（佐伯空基地）



海上護衛總口。聯合艦隊。一機動基地航空部隊。九〇一空。西方部隊戰況概報着信艦所。一〇二艦隊。

892

機密第〇四二三五九番電

一 四 電令作第二二號

一 九三一空艦攻全力ヲ以テ機密 G E B 命令作第二四號ニ依ル第一攻撃隊ヲ編成一 R F G B、六 F A 及五 F G B ノ攻撃ニ策應シ敵攻略船團ニ

攻撃ヲ指向戰果ヲ擴充セントス

二 九三一空兵力ノ一 四 電令作第九號ニ依ル行動 九三一空司令ハ速ニ艦攻全力ヲ佐伯ニ集結攻撃準備ヲ完成スベシ

三 攻撃ハ特令ス。

三〇五一 呂一ロケ七（四九一五）佐二放

昭和廿年四月五日

片

下

四 六

受信始 〇〇七八一  
〇〇七四三

譯了 〇九〇一

電 〇〇三三四三七  
〇〇三三四三八

作 概

作戰緊急

○

南西方面部隊情報着信艦所

○

作

機密 〇五〇八〇八番電

三分ノ三

893

小型舟艇二二隻(一四) 逐艦〇(一) 魚雷艇基地母艦一隻日八(一)  
視認不能(一) 飛行艇基地不明灣口驅逐艇一隻移動哨戒中(二日)  
二 航空情況

霧ノ爲飛行場狀況不明ナルヲ連日〇六三〇觀測機〇七三〇輸送機〇八  
三〇攻撃機群發進一二三〇ニ至ラバ大部分歸着午後(三) 機ニテ半經哨  
戒スルヲ多シ驅逐特務艇(除) 敷設艇六(除) 船地ニ(九) 隻一日夜  
入港トシモノ如シ小型舟艇二〇隻ニテ盛ニ湯塔ヤリ

通 三三  
七五  
七七  
五五

呂 一  
五  
ラ  
十  
八

日 三  
一  
〇  
五  
日

明比 (片山) (田)

(1)

昭和廿年四月七日

(口) 天候最近雲量増加視認不能ノヲト多シ一般ニ山頂快晴ナルモ風向  
NW 中 米程度三日ハ終日視認不能。

下層雲(雲高1000附近)多ク

〔電信課註 本電三分ノ一未着〕

(2)

四六

受信〇〇八一二六  
譯始〇八〇九

譯了一七五八

電〇三五四五

謀通

昭和廿年四月廿日

占守通

⑤

⑤ 日情報着信艦所。北東方面部隊。大湊警備府部隊。第一飛行司令部  
第一千歲航空基地。北太平洋方面地域所在艦所關係電報

⑥

⑥ 聯合艦隊口。三航空艦隊口

機密第〇五〇八二一番電 七分ノ三

894

船舶數ハ中部方面未層有ノ活狀ヲ呈シツツアルニ反シ北部太平洋ハ  
防備極メテ微メタルモノニシテ一ヶ月平均數隻ニメラズ又艦艇出現  
數モ昨年ト同様尠ク大兵力集中ノ徵候ニ就キ航空機關係ハ昨年同様  
西部アリウシヤン航空基地ノ整備工事ニ關シテハ不  
ヲ呈セルモ。 一時活狀ヲ

〔東通註、亂數ニ誤アリ〕

通三六四八

天Bケ三(四〇七五K)大湊通

坂本(川崎)

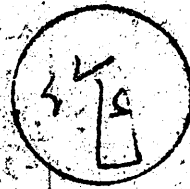
四五 受信 一三三六 譯了 一七二〇 電〇二八九六

昭和廿年四月六日

第四通信隊

通・第三十一通信隊第五分遣隊

機密第〇五〇九二七番電



宛 南西方面艦隊司令長官

通報 〇長官 大海軍一部長

第二十七特別根據地隊機密第〇四一〇五〇番電作成換轉電

第二十七特別根據地隊機關概報 (三月)

一 來襲敵機數大型一二機、中型三八機

二 射撃リユ一島機同數六機、機數四〇機

三 敵ハ三月十七日「ブウコ」ニ上陸三月末同地東方十五軒、「七七」

ヨウ」ニ進出セリ

四 十二月以降ノ海軍部隊戦死者二九〇名、現在員一四三〇名。

五 三二一八 呂一三三十八(一七六三〇) 國通 未松(小野口)

昭和廿年四月六日

四五 受信二〇七四七 了二二〇五 電〇三〇九二 航作機〇

至 急 九三一空（佐伯航空基地） 九三一空（戊航空基地）

作

九三一空（佐伯航空基地） 海上護衛線口・九〇一空・一〇二戰隊P・?

機密第〇五一一二六番電

發 第九三一航空隊司令

電令作第五三號

明六日本職艦攻隊ヲ率キ戊基地發進佐伯ニ歸投次期作戰ノ戰備ヲ速成セ  
ントス

一、本五日前ノ作戰行動ヲ以テ當隊戊基地派遣隊AS三作戰ヲ終結

二、輸送機ハ下命ニ依リ當隊戊基地派遣隊ノ空輸ニ任ズベシ

三、本職戊基地發進後所在前任將校ヲシテ戊基地派遣隊ヲ指揮セシム

四、戊基地派遣隊ノ佐伯歸還輸送計畫ハ別ニ之ヲ定ム

送三四一七 呂一Eケ七（一三五二〇K）高雄 風間（福田）

人

作戰緊急

四五  
譯受  
始信  
一三四八  
一四二〇  
譯了  
一四四〇  
電〇二九九一  
航作  
概  
本〇

昭和廿年四月六日

鎮海警

第一護衛艦隊



九五一空。鎮海空。一〇二戰隊。九五一空(博多空)

機密第〇五一一四一番電

當隊機密第〇五一一四番電關聯

現在朝鮮海峽方面當隊航空兵力ナキニ付貴隊舟艇ニ依リ第一哨戒  
部隊ノ掃蕩ニ協力ヲ得度。

通三二二五五  
天二Bケ八(九八三〇KC)佐二放  
明比(小野田)



局長							
二課長							
A	B	C	D	E	F	G	H

四八 受信 一七二一三 譯了 一八〇〇 電〇四七八九 作訓

機密第〇五一五〇番電 二分ノ一

第三南遣艦隊中 南西方面艦隊P・三一根P  
 通報表未 非島部隊戦闘概報着信艦所



五 警

898

昭和廿年四月九日

「レガスピ」陸戰戰訓所見 其ノ四  
 九戰團指導上困難ヲ感スル事項

- (1) 指導幹部ノ不足
- (2) 中隊長格ノモノナキコト
- (3) 連絡トレズ各小隊毎ノ戰團ニ隔タラントスルコト
- (4) 兵ニ隨身兵器ナク竹槍隊多キコト

通四八九五 オ一五(一五七)〇〇C(三二通) 山本(木) 下

(1)

(\*) 戦闘訓練部隊多ク小隊長及兵ノ陸戦基礎教育不足ナルコト  
 館砲身陸戦兵皆レモ優秀ナリニ國兵モ教育セバ充分役ニ立ツ  
 (中川防空小隊)

(電信課註 本電二分ノ一既配布)

四五 至急

受信一六三〇〇

譯了二六三一

電〇二八二六

作機〇〇

昭和廿年四月六日



東通・六艦隊

呂一〇三(吳工廠)

機密第〇五一三一六番電

通報 次長官

波號第一〇三潜水艦ハ從來ノ同型艦ニ比シ殆下同程度ニ近ク線度向上シ  
アリト認ム從ツテ當方面現下ノ狀態ニ鑑ミ四月七日訓練終了ノトトス

通三三〇六

呂一Bケ七

B

(吳通 東野(小 嶮))

昭和廿年四月六日

西 六 受信 〇〇三四〇〇 了 〇四〇〇 〇三二八八 作 〇

機 密 〇五 一四四 五番電



機 密 〇五 一四四 五番電

機 密 第 〇 五 一 四 四 五 番 電

900

通報 佐鎮長官 〇 〇 長官

横 鎮 艦 長 令 作 第 八 三 號

一 九 〇 三 部 隊 司 令 官 ハ 攻 撃 準 備 中 ノ 第 一 攻 撃 隊 ノ 大 部 チ シ テ 佐 鎮 長

官 ノ 指 揮 チ 受 ケ シ ム ベシ

三 横 空 司 令 及 三 〇 二 一 司 令 ハ 各 輪 送 機 三 機 チ 六 日 中 ニ 鎮 山 基 地 ニ 派

遣 シ 右 飛 行 機 隊 移 動 ニ 協 力 ス ベシ

通 三 六 七 五 P 一 B ケ 七 (一六四〇) 横 通 神 山 (鈴 三)

秀

四六 受信 一〇〇五〇五

譯了 一一三〇

電 〇三九二六

作概 〇

緊急

傍

九〇一

航空 高警

九〇一 空 (戌基地)

(博多航空隊)

(東港航空基地)

九〇二

空 (淡水航空基地)

機密第 〇五一四五〇番電

二分ノ二

901

昭和廿年四月七日

四 豫剩搭乗員准士官以上一下士官兵五臺北ヨリ輸送機便ニ依頼ノ豫定  
五 本島出身兵二〇 七日午食後東港基地向ケ出發セシム  
六 入院中ノ者五名ハ在院ノ儘東港ニセシム。

《電信註 六電二分ノ一未着》

通三八五二 呂一B七七 (九八三〇) 生放

村尾 (岩崎)

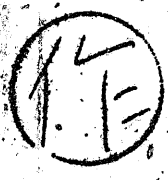


昭和廿年四月六日

四 受信二〇三  
譯始二二三〇  
了二三四〇 電〇三一四三 作概

至 急

九三一空 (戊航空基地)



- 一 護衛艦隊 F・一〇二戰隊 上海特根
- 海護總口・二二海防隊 三哨戒隊

903

機密等 〇五一五一六番電 二分ノ二

九三一空戊基地派遣隊作戰速報第一八號 (四月五日)

一〇九一五艦攻二機發進基地ノ八六度一四〇涅ノ敵潛水艦ヲ一時間三〇分ニ亘リ磁探索敵セルモ敵情ヲ得ズ及附近味方艦船ヲ認メズ一三一五

歸着

三〇九〇〇艦攻一機發進東海 (九五一空龍華派遣隊) 遭難ス現場約十二

涅艦内搜索セルモ遭難搭乗員及機體ヲ認メズ一三一五歸着

三九三一空戊基地派遣隊ノAS三作戦ハ本日一四〇〇終結ス

道 三五〇〇三 天二Eケ八 四七〇五 (高瀬) 牛島 (松山) (4)

四明六日〇九〇〇艦攻七機發進濟州島經由哨戒實施シツツ〇九三〇歸  
投ノ豫定。

「東通註 本文「中」「及」ハ「航路帶」トモナル」

(2)



四、五 受信一八五五 譯了一九一五 電〇三〇八八 作 概〇

作戰緊急

海上護衛總口・聯合艦隊各口・各鎮各營

大本營海軍部・支那方面艦隊口・六航軍派遣通信隊

機密第〇五一六〇六番電

聯合艦隊司令第六〇八號

一、鹿屋航空基地ヲ G P 第二作隊司令部トス

二、本職四月六日午後第二作隊司令部ニ將旗ヲ移揚ス。

通三四一八 呂一Bケ七 ( B ) G P 口 半澤 ( 土 ) 谷 ( )

昭和廿年四月六日

四 五 受信一八五〇〇 譯了二〇四五 電〇三〇九〇  
開始二〇一〇〇 航作  
本機〇

緊急



九五一空 大本營海軍部。天一號作戦部隊

機密第〇三一六五五番電

905

佐藤電令作第一二號

一 佐藤電令作第六號ニ依ル飛行哨戒配備哨區及哨戒法本三日以後  
左ノ通トス

第三配備「イー」哨區甲哨戒「オ」哨區甲哨戒（狀況ニ依リテ  
哨戒）

二 第九五一空司令官ハ海護總電令作第四三七號第二項所定兵力ヲ

「イー」哨區哨戒ニ關シ指揮スベシ。

通三口三二 呂一B七（B）佐世保 霧生（雨）谷（

昭和廿年四月六日

通三七三三

呂一〇七(一六四〇) (機通) 半澤 (松山)

機密機領電令作第八四號

一、九〇三空司令官ハ電探哨戒可能ノ水偵空力ヲ指揮ニ派遣哨戒ニ關シ  
 佐世保鎮守府護衛部隊指揮官ノ指揮ヲ承ケシムベシ

二、機領輸送部長ハ飛行艇一機ヲ六日中ニ大湊ニ派遣シ九〇三空水偵隊  
 協動ニ協力セシムベシ

機密第〇五一七一五番電

機密機領電令作第八四號

機密機領電令作第八四號

作

局長	海軍	陸軍	航空	機務	運輸	燃料	衛生	警備	庶務
大湊	佐世保	松山	大湊	佐世保	松山	大湊	佐世保	松山	大湊
佐世保	松山	大湊	佐世保	松山	大湊	佐世保	松山	大湊	佐世保
松山	大湊	佐世保	松山	大湊	佐世保	松山	大湊	佐世保	松山

四 六

受領開始〇五五五 〇六〇〇 〇六一〇 〇三一九六

航作機本〇

昭和廿年四月六日

906

人

作戦要領

四六 受領開始〇六四五

〇七二〇

電〇三一九五

航作機本〇



九〇三

〇三

航

空

隊



九〇三

航

空

隊

〇

〇

〇

海護線口・聯合艦隊口・九五一空・大湊警備府・佐領  
機密第〇五一八〇五番電

機密第〇五一八〇五番電

九〇三空電令作第三九號

一、横領信電令作第八四號ニ依リ哨戒機派出區分ヲ串本ニ大湊五トス各

派遣隊指揮官ハ準備出來次第指宿ニ派遣哨區哨戒ニ關シ佐領官ノ

指揮ヲ承ケシムベシ

二、所要ノ基地員及物件ハ四月七日大湊發串本經由指宿行ノ飛行艇便ニ

依リ輸送スベシ。

通三七四一

呂一〇ケ七

一六四〇KC

掃通

片山(松山)

907

昭和廿年四月六日

249

四六

受信〇二〇七  
開始一〇二〇  
了了一一二三  
電〇三四七四  
作

昭和廿年四月廿日

作

● ●

二二根戦國報着信監所  
一一根ハイフオン派遣・二二根バンチヨルマレン派遣

● 二 警 備 隊

機密第〇五一八一―番電 三分ノ一

908

通報 一〇一燃料廠長・ホルネ才民政部長官  
戦國報 一四月五日

一〇九四八B二四 十八機P三八 十機來襲燃料廠附近及「リンカス」  
油槽地帯舊無線電信鐵塔ノアル「マルコニ」附近爆撃P三八ハ約一  
時間ニ亘リタンク山及海岸附近陸地ヲ銃爆撃我之ヲ交戦一一〇七北東  
ニ撃退

二 戦果

一 電信誤誌 本電三分ノ二三未着

通三六 天Bケ六(六一二二五K)二一 通 池阪(高橋)

閉送

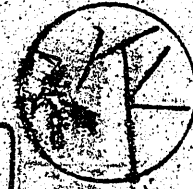
四

六五 受信二二二〇  
譯始〇八一三〇

譯了〇九二〇

電〇三三四七五

昭和廿年四月七日  
作概



東通

横通

共

符

機密第〇五一九〇八番電

三分ノ一、二

909

發 父島方面特別根據地隊司令官

宛 横須賀領守府參謀長 大本營海軍參謀部第一課長 軍務局長

一 四月一日以降稀ニ哨戒機ノ近海哨戒アルモ侵入投彈スルモノ及從來連日來襲アリタル大型機小型機編隊ノ來襲一同モナク情況極メテ閑散ナリ

右ハ南西諸島作戰協力ノ都合上硫黃島ヨリ當方面向ケ指向兵力ノ餘裕抄キ爲ト思考セラルルモ一方連日細雨又ハ霧來襲ニ依リ其ノ行動ヲ阻害セラレアルコト亦一因ナリト認ム昨今ノ霧ハ山頂附近以上ハ相當濃密ナル場合多キモ海面上約一〇〇米附近迄ハ視界比

通三五五七  
三五六九

呂一〇ケ七(五一〇〇)父通

高井(小澤) (一)



較的良好ニシテ海面ハ極ノテ平穩ナル場合多シ

二、聳島附近ハ昨今哨戒機ヲ始ト行動セズ晴天トナラバ一應情況確

認ノ偵察行動アルモノト判断ス。

（電信課註 本電三分ノ三未着）

閉送

四七 受信〇一四一 譯了〇八二五 電〇四一〇二 作 概  
譯始〇七四〇



東通・横須賀通信隊

共 符

機密第〇五一九〇八番電 三分ノ三

910

四月八日

通報 聯合艦隊參謀長 第二輸送隊司令 第九輸送艦長

三、聳島陸海軍部隊撤收ノ爲機帆船ノ夜間航行及晝間碇泊多カリシモ

未ダ本企圖ヲ察知セラレタル模様ナシ

四、聳島海軍部隊ハ見張所員一名ヲ殘撤收完了陸軍ハ本月七日頃完了ノ豫定

（電信課註 本電三分ノ一二既配布）

送四四九〇 呂一Bケ七（B） 通 金子（淺脚）



四五 詳受二〇二五

電〇二九七三 諜 通

作戦特別緊急

第五、第三各航空艦隊・阪  
聯合艦隊司令部 各 警 鎮

機密第〇五一九三七番電

發大和田通信隊司令

通信狀況（サイパン基地B1二九發信氣象電前回ニ類似セルヨリ判  
斷）ニ依レバ今夜B1二九本土來襲ノ氣配アリ。

通三四八一 呂一B（電話）大和田

柳町（木下）

昭和廿年四月六日

911



四 六 受信〇〇一四七 譯始〇四〇五 譯了一七〇〇 電〇三六二五 作

● 二五根戰國概報着信處所 ● 五 警備部 隊

機密第〇五二〇五〇番電 二分ノ二

三四月四日「ボイファイター」四機「トアル」ニ來襲一機

襲撃被害ナシ

三四月五日「諸島」ヨリノ報告ニ依レバ最近連日

見張所B二五又ハ四發同諸島沿岸ヲ哨戒侵入

「電信課註 本電二分ノ一既配布」

「東 通註 問符ノ箇所ヲ詳函難」

本電再檢討ニ依リ遲延

通三六五四 呂一Bケ七(六一二二)五五(二一) 大塚(小澤)

昭和廿年四月七日

人

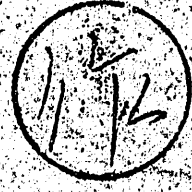
四六  
急

受信〇三四〇  
開始〇五一五

了〇五五五  
電〇三一六〇

作  
航本

横濱航空基地



第一空挺隊(厚木、霞ヶ浦、横濱)・第二空挺隊(第一鈴鹿空基地)  
航本 総務部・聯合艦隊口・霞ヶ浦航空隊・富高航空基地

機密第〇五二〇五七番電

913

一UFB信電令作第三五號

(受脱) 受脱(〇二二五各隊所屬ノ作戰可能零戦全機(各隊約四機)

ヲ急遽整備(四月七日迄)富高基地ニ空輸シ第五航空艦隊部隊ニ

引渡スベシ。

通三七〇三

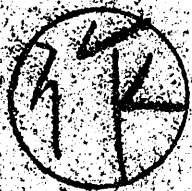
呂一Bケ七(一八四〇KG)横濱

海軍(杉本)

昭和廿年四月六日

矢

六



四 六 受信〇三二〇 譯了〇六二五 電〇三二二三〇 航作概本〇

● 横須賀航空隊  
● 航空本部・聯合艦隊口・五航空艦隊口・笠ノ原航空基地

機密第〇五二一〇五番電

914

昭和廿年四月七日

宛 第一航空技術廠長 第二航空廠長

機密横領信電令作第八五號

一、横須賀航空隊司令ハ作戰可能ノ零戰（但シ實驗ノ爲特殊装置ヲ施

セルモノヲ除ク）ヲ兵裝完備六日中ニ笠ノ原基地ニ空中輸送ノ上

第五航空艦隊ヨリ供給替スベシ已ムヲ得ズシテ六日中ニ空中輸送

不能ノ分ハ成ルベク七日中ニ空輸ヲ完了スベシ

二、第一航空技術廠長第二航空廠長ハ右作業ヲ援助スベシ。

通三六九三 呂一五七七（一八四〇）横通 福山（小澤）







四

八六  
受信一五二  
開始〇八三〇

了〇九三〇 電〇四五六七

作機〇

昭和廿年四月九日

至  
急



海上護衛總口・吳防戰▽・吳鎮  
機動基地航空部隊▽・一隊機部隊  
五二空基地・牽久・機務防備部隊

機密第〇六〇九三二番電 三分ノ二

916

二十七日

(1) 水偵電探四機明朝〇二二〇時時二鶴見崎國一五〇度一九〇度

時一五〇度電探哨戒(天)時八哨戒(參)

(2) 東海電探

黎明前發進鶴見崎、一四五度一九〇度、一〇〇度電探哨戒。

電信課註 本電三分ノ二三既配布

昭和二十一年四月九日 天二日八八八 一吳鎮 電探哨戒

人

考

作

四七  
緊急

受信〇五三四一  
譯始一二三一

譯了〇〇二四

電自〇四四五  
至〇四五一七

作概

昭和廿年四月九日

第一護衛部隊

海上護衛總口・支那方面艦隊口・佐鎮・鎮警・九五一空△  
上海根△・青根△・一〇三戰隊△

機密第〇六一〇三一番電 六分ノ一、二、三、五

一 E F 電令作第二六號 (發動特令ス)

A S 三作戰要領左ノ通ニ改ム

一 哨戒帶ヲ左ニ依リ其ノ中心線ニ直角ニ三〇哩毎ニ區分ス

二 泗礁山頂ヲ基點トシ東方ニ區分シ西ヨリ以北ロ一マ字ノ順ニ

名稱ヲ附シAヨリHニ至ル

三 豆ヶ崎ヨリ濟東哨戒帶中心線ニ延長方向 (東) 一五哩ノ點ヲ

基點トシ西方〇區S哨戒帶東ヨリ「ロ一マ」字逆順序ニ名稱

通

四二三四  
五三三七

通四六七〇

呂二一三ヶ六 (四九一五)

佐二放

東坂田  
會田相澤 (川崎)



ヲ附シNヨリJニ至ル

(5) HトJノ間ヲE (濟西哨戒帯ニ入ル) N (對線上東方ニ入

ル)ノ商E哨戒帯ニ通ス

ニ東海哨戒部隊ハ左ノ外指揮官所定ニ依リ指揮ス

(イ)哨戒機ト緊密ニ連絡シテ其發見セル敵潜ヲ撃滅ス

(ロ)陸上方位測定附近ノ敵潜ヲ搜索撃滅ス

(ハ)移動哨戒ハ概ネ二隻以上連繫シテ主トシテ夜間實施シ晝間ハ

特ニ必要ナル場合ノ外實施セズ

(以下六分ノ五)

以通信ハ左ノ外現狀通

(イ)航空機電波五三三七・五K

(ロ)鹿島ハ第三基點通信系ニ加入ス

(ハ)地點表示

(イ)第二地點表示法

(二)

- (一) 白基點 (イ) 燃料
- (二) 花間山燈臺 (ウ) 牛島燈臺 (エ) 豆酸崎 (ツ)
- (三) 馬羅島燈臺 (チ) (リ) (三)

〔電信課註、本電六分ノ四、六未着〕  
 〔東通註、本電再送ノ爲遅延〕

昭和廿年四月九日